

青梅市文化財ニュース

第 3 6 9 号

平成 3 0 年 7 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859）

ときわぎ 常盤樹神社の木製鳥居

常盤樹神社は青梅市今寺一丁目 530 番地に位置し、古くから地域住民に崇拝されています。

創建の詳細は不明ですが、明治 21（1888）年頃に書かれた『皇国地誌・今寺村誌』には、文禄 4（1595）年の棟札が保存されていることが記録されていることから、その頃には創建されたと考えられ、現在の常盤樹神社の名称になったのは、明治 3（1870）年です。

明治 2（1869）年 2 月、明治政府は全国に祀られている、莫大な数の神社を整理します。その一環として、今寺村に祀られていた稲荷明神・山王神社・熊野神社・若宮八幡宮・天満天神社を合祀し、植竹神社となりました。さらに翌年、現在の名称に改称されました。名称は、境内に幹囲約 1 丈 2 尺（約 3.6m）で、樹力が旺盛な榎木があることに由来しています。

祭神は、合祀される以前の神々、すなわち伊弉那美命・速玉之男命・事解之男命・熊野樟日命・大鷦鷯命・猿田彦命・宇迦之御魂命・大宮比賣命・大山咋命・菅原道真です。

かつては、市道に面して石造の神明鳥居が、その奥部に木製鳥居がありましたが、平成 29（2017）年 10 月、南側を東西に延びる市道の拡幅工事に伴い、木製鳥居が取り壊され、かつての木製鳥居の位置に、神明鳥居が移設されました。

平成 29（2017）年 4 月 11 日に、拡幅工事を行う話が郷土博物館に入り、同年 4 月 26 日、青梅市文化財保護指導員の三好ゆき江氏と東山啓子氏が、鳥居の調査を行いました。

青梅市内にある神社の鳥居としては、珍しい両部鳥居でしたので、ここで改めて紹介します。

【鳥居の規模】

- 1 笠木の長さ：約 530 cm
- 2 反り増しの高さ：約 12 cm
- 3 反り増しの斜め巾：約 13 cm
- 4 鳥木の高さ：約 15 cm



旧鳥居

- 5 額束の巾：約 20 cm
- 6 貫の高さ：約 22 cm、貫の長さ：約 395 cm
- 7 柱間の巾：約 195 cm
- 8 地面から貫までの高さ：約 250 cm、地面から笠木までの柱の高さ：約 292 cm

額束の両端部分が、上部の島木と下部の貫に差し込むようになっており、島木の側面に、下記の銘がありました。

「社掌 築地準蔵／氏子総代／星野新造／須田祐之助／市川十七五郎／加藤啓三」
「大工棟梁 星野百太郎□□亮次／弘化四丁未歳／六月大吉 再建」

弘化4年は1847年であることから、この年に再建されたことが分かりますが、稻荷明神・山王神社・熊野神社・若宮八幡宮・天満天神社のうち、どの神社であったかについては不明です。再建から約40年後に書かれた『皇国地誌』には、鳥居の高さは約450 cmと記載されていますが、実際は約340 cmで、柱間の広さも約210 cmではなく、それよりいくぶん狭い約195 cmでした。

なお、青梅市にある神社と祭神については、青梅市文化財保護指導員連絡協議会報告書（第33号）に掲載されている「神森 正：青梅市の神社と御祭神について」に詳しく紹介されています。

（文責 角田清美）



墨書の銘文